

「コリント教会へのパウロの手紙」のポイント

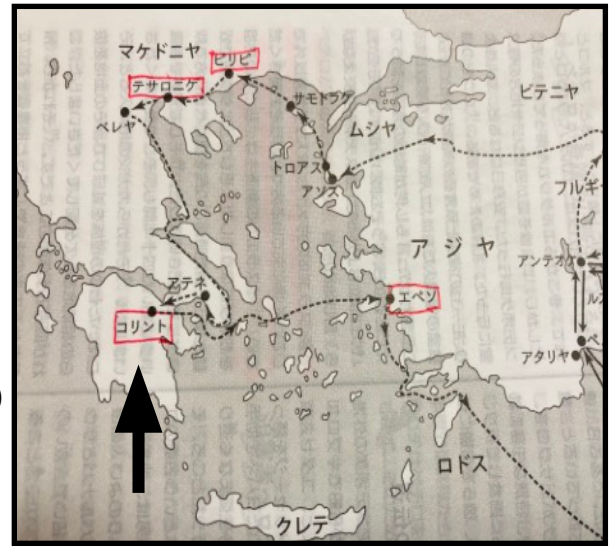
1 コリント教会への手紙のアウトライン

A：教会の問題についての対処

- (1)教会の分裂について(1章10節～4章21節)
- (2)教会の無秩序な状態について(5章1節～6章20節)

B：教会の質問に答える

- (1)クリスチャンの結婚に関する教え(7章1節～40節)
- (2)クリスチャンの自由に関する教え(8章1節～10章33節)
- (3)礼拝に関する教え(11章1節～14章40節)
- (4)復活に関する教え(15章1節～16章24節)



「コリント教会へのパウロの手紙」を読んでみよう

1 今日の聖書箇所：7章25節～40節

2 今日のポイント：終末が近いと感じた時の優先順位の大切さ

(1)前回までの復習

パウロは7章の前半で離婚や再婚について言及しました。クリスチャン同士の結婚については、主の命令だとして「離婚してはならない」と説きました。これはマルコ福音書でもイエス様が語られている様にクリスチャン同士の結婚は創造主が結び合わせて下さったものだからです。また、夫婦のうち、片方が未信者の場合も未信者側が望むのであれば離婚せずに一緒に生活することを勧めています。なぜなら信者の伴侶を通して、その家庭に恵みが注がれるからです。一方で、未信者側が信仰を捨てなければ離婚する(もしくは離れていく)事を宣言した場合には、未信者の望む通りにしても良いとパウロは語りました。

(2)危急の時の優先順位

7章前半でパウロは結婚生活や独身について語り、7章中盤ではクリスチャン同士の夫婦の離婚について語りました。パウロは7章の後半で、引き続き結婚関係の問題(今回は独身について)について述べています。しかしここで注目したいのは、今回の聖書箇所の最初に「危急の時」というタイトルがついている事です。26節で「クリスチャンが危機に直面している今のような時には」、29節で「信者の皆さん、私が言いたいことは、これから先の時はもう余り長くはないということである」とパウロが語っています。当時のクリスチャン達は、初代教会として福音の広がりを感じつつも、多くの困難や迫害も始まっている状況にありました。彼らは、当時「再臨は近し」「イエス様は間もなく」という言葉を合言葉として使っている程、終末を思いながら、イエス様の再臨を期待しながら過ごしていました。

そのような終末観の中で、パウロは人生の優先順位として結婚することよりも主に仕える事の方が大切ではないか(35節)と語ったのです。これは結婚生活だけにとどまらず、30～31節にあるように経済生活に対しても同じことでした。この世が永遠に続くかのように、この地上での生活に全てをかけ

て生活するのではなく、いつイエス様が再臨されても良いように、人生の最優先課題として「主に仕える」事の大切さを訴えたのです。結婚しているのであれば結婚している状態で、結婚していないのであれば独身の状態で(もし、結婚適齢期の子供を結婚させないで問題が起きそうであれば結婚させて/36節)、それぞれの置かれた場所で、最優先に主に仕えることを目的として生きるようにパウロは語りました。

一方で、聖書では、終末が近いからといって生業をおろそかにして生きる事の危険も語っています。宗教改革の立役者であるマルチンルターは「明日、世界の終わりが来たらどうするか」という問いに「たとえ、明日、世の終わりが来ても、私はりんごの木を植える」と語ったことはあまりにも有名です。イエス様がいつ再臨なされるかは誰にも分かりません。その中で、いつ再臨されても良い様に心の準備をしながら、置かれた場所で最善を尽くして主に仕える者でありたいものです。

(3)死別について

パウロは7章の最後に、死別についても語りました。二人が結婚して生活をしている以上、どちらか片方が先に天に召されることは起こり得る事です。パウロはその様な場合、結婚の契約は終了する為誰と結婚しても自由だと語りました。しかし、唯一の条件として、39節で書かれているようにイエス様を信じている人と結婚すべきだと説きました。なぜなら、パウロは結婚も、独身も、離婚後の生活も、そして再婚も「主の栄光の為」「再臨が近いのなら尚さら主に仕える為」と考えていたからです。

40節ではイエス様の命令ではないにしそ、聖霊様に導かれて語る者として「再婚しない方が良い」のではないかと語っています。

3 分かち合ってみましょう

パウロや初代教会の人々は「主は近し」という合言葉を掛け合っていた様に、終末やイエス様の再臨を非常に近い出来事として捉えていた様です。その思いが、彼らの結婚観・人生観・信仰に現れていました。パウロはその様な意味で「置かれた場所で、最優先に主に仕えることができる姿で生きていく事の大切さを説きました。

私たちの人生の中で2つの終末を考える必要があります。1つはイエス様の再臨に表される「この世の終末」です。もう一つは自分という人間が死を迎える「一人の人間としての終末」です。この終末を考えると、私たちの人生の最優先にやるべきことはなんでしょうか。いつか来る終末観は、私たちの人生に何か影響を与えているのでしょうか。

また、夫婦の場合には「死別」のことについて、どんな話が行き交っているのでしょうか。